

「21回生掲示板」記録2 (07.6~06.11)

壱岐へ

投稿者:飯田 投稿日:2007年6月27日(水)23時57分7秒

楽しかった同窓生との再会の翌日、主人とそのお仲間20人で壱岐へと旅しました。

蒼い海とお魚、特にウニが美味しい時期と聞き、期待に胸弾ませ、博多港からジェットフォイルで一時間、芦辺港へ上陸しました。

生憎のお天気で抜けるような空と蒼い海はおあずけとなりましたが、名所をいろいろ観光しました。

写真右は「猿岩」付近の景色です。晴れていれば最高に美しい海が臨めるそうです。

左下は猿岩の展望所近くの「黒崎砲台跡」。昭和3年から6年かけて完成したにも拘わらず、一発も実弾を発射することなく終戦を迎えたとか。巨大な地下要塞ですが、砲台の巨大な穴を地上からも見ることができます。

左上は郷ノ浦港で、ウニを二つに割って中身を出している海女さんを囲んでいるところです。この日は小さな「バフンウニ」とトゲトゲのある高級な「あかうニ」があがりました。

ところがこの日は水揚げ量が少なく、旅館の夕食にはウニは登場しませんでした。せっかく壱岐まで行ったのに、ウニが食べられないなんて・・・。

東京や大阪からはるばるやってきたのですから諦めるわけにはいきません。

旅館のフロントでウニを食べさせてくれるところを探していただき、二次会は近くの小料理屋へと繰り出しました。

新鮮な採りたてのウニやクジラ肉に舌鼓をうち一同大満足でした。

壱岐は魏志倭人伝にも「一支国」として登場する程、歴史のあるところだそうです。

福岡からは日帰りも可能です。

皆様も是非一度お訪ね下さい。



空を映す田

投稿者:高田 投稿日:2007年6月3日(日)23時41分21秒

福岡近郊で田植を見かける時期になりました。

私の地域でも田植真っ盛りです。

5月の連休に九州の山手の早い所では田植が始まっていました。

連休に田植をみると今年も田植が始まるのかと楽しい気持ちが萎んでしまいます。

田植から始まる農作業は夏本番を迎えるととてもつらくなります。

青春時代は殆んど手伝うことがなかったので、夏=青春で好きな季節だったのが一人で農作業をするようになって夏は嫌いになりました。

春と夏が逆になればいいなと思っています。米は超不作になるでしょうけど・・・

昔の田植、小学生の頃ですが、機械もなく全て手作業でした。

田植も苗床から苗を取り、それをまた田に手で植え替えていました。それが田植でした。

そういえば田すきや田かきは牛や馬を使っていました。

思い出せば空恐ろしい作業だったですね。

私の家にも馬小屋がありました。農家の普通の姿でした。

遠い昔の風景です。思えば随分歳をとったようです。

さて、そんな思い出の田植と違って散歩で田植した風景を見るとのどかで癒されます。

やっぱり風景を見るのがいいですね。

写真は田に空が写っているのを撮りました。昨年投稿した写真との違いがお判りでしょうか？ 少しそれらしくなったでしょうか???

田植え後は苗も小さく水もタツプリですので昼間は空が反射します。

夜は月の光が反射して綺麗です。来年は月の光に輝く田を撮りたいと思っています。

上の写真奥にダムが見えます。蛍の里があります。

先週より蛍が見れるようになりました。蛍より見物人が多いです。



福岡タワー 2

投稿者:高田 投稿日:2007年5月15日(火)00時43分42秒

日曜日に福岡タワー展望レストランでお昼をしました。

日曜日は母の日でしたね。

妻が今日は母の日ねと言いましたが、深く考えずに出かけました。

常々奉仕の毎日とまではいきませんが、日曜日には付き合うようにしていますので、とりあえず無視です。母でもないし・・・

久しぶりに海へと思い近場の糸島方面へ向かっていたら前日平田さんに会ったのを思い出し、福岡タワー展望レストランで昼食をすることにしました。

1階のレストランは2度ランチをしましたが、展望レストランは初めてでした。

貧乏人なので下から見上げるだけでした。

福岡の方は見慣れた風景でも故郷の風景をご覧になりたい方もいるかと思い写真を撮りました。枚数が多いので2つに分けて投稿します。

左上は能古島です。右に志賀島が見えます。

右上は東方面で、中央区、東区方面になります。

左下は西方面で左遠方が糸島半島です。

右下は中央の森が大濠公園で、右に動植物園の森が見えます。

下の写真上左はレストランで食事をしたテーブルです。どの席からも展望ができます。

レストランの案内では

360度のパノラマ。地上120メートルの回廊のような空中でくつろぐ魅力の隠れ家で、楽しいひとときを。とあり、まさにその通りです。

お昼のランチ、夕焼けを見ながら、夜景でロマンチックなひと時を過ごすのもいいです。

この日は夕焼けが見事だったと思います。見れなかったので写真もなし、残念！

展望レストランは結婚式もできます。

昼食を終わるころリハーサルをやっていました。地上120メートルの結婚式も中に浮いた感じがしていいかもしれません。ささやかな再婚式など足が地に付かない感じがピッタリかと思いますが、如何でしょう？

海岸沿いのマリゾンも結婚式場になっていますね。

5月の海で初夏の光と爽やかな潮風を感じ、波の音に暫し身を任せ、散策すると癒されます。

皆さんも百道浜と福岡タワーを如何です？

長くなりましたが、最後の水上バイクの写真は飛沫が飛んできました。

あと1秒待っていたらもっといい写真になったかもしれませんが・・・

愛機は塩を吹き、私は水も滴るいい男になれたかも？



祝福メールです

投稿者:松尾 投稿日:2007年 5月 11日(金)09時 21分 36秒

ホームページのお誕生日おめでとうございます。

楽しく目を通すのが日課となっています。

改めましてホームページ委員や投稿者の方々、ありがとうございます。

新たにお世話係に就任された田所さん、どうぞ宜しくお願いします。

今後さらに広く深く成長していく21回生のホームページに期待していますよ。

ホームページ3年目に感謝

投稿者:高田 投稿日:2007年 5月 10日(木)23時 33分 6秒

ゴールデンウィークも終わり4日目、普段の生活や仕事に戻り、過ぎた連休が遠ざかっていくようです。

皆さんは行楽、休養、家事、自己啓発などと有意義に過ごされたと思います。

連休にホームページをご覧になった方はあったでしょうか？

話題に事欠いて掲載が少なく最近ちょっと寂しいホームページです。

そんなホームページも連休で2周年を迎えました。

2005年5月2日のスタートでした。

今思えば無知から始めた安易なスタートだったかとも思えます。

安易だったから始められたのかもしれませんが。

スタートから2年間続けてこられたのも皆様のご協力のお蔭です。

ご協力とご愛顧に心より感謝します。

それでは、これでサヨウナラ。

などということはありません。

これからも、どうぞ宜しくお願いいたします。

2周年を迎えたのに誰からも祝福のメールが来ません。

私が忘れていたのだから無理もないですね。誰も分かっていないのだから。

昨日ふと思い出し、投稿予定を変更しました。

写真だけ予定通りです。文章と写真が合いませんが高原のお花畑の雰囲気を感じていただけたらと思います。連休の雨模様の久住花公園です。

ロマンチストが撮った写真、如何です。まだ駆け出しですが気分は写真家？です。



1,200km 走破

投稿者:なかむら(純) 投稿日:2007年5月4日(金)11時40分42秒

4月27日12時に東大和市を愛犬と愛妻(?)を連れて出発しました。

13時30分:談合坂(山梨)

15時:諏訪湖(長野)

17時:恵那峡(岐阜)

19時:養老(岐阜)

21時30分:西宮名塩(兵庫)

0時30分：大佐（岡山）・・・ここで仮眠5時30分出発

7時：安佐（広島）

9時：美東（山口）

10時30分：関門海峡通過

12時：古賀（福岡）

12時30分：自宅到着

疲れたあ～



酒蔵巡りを終わって

投稿者:稲永です 投稿日:2007年4月8日(日)16時29分1秒

久しぶりです。春分が過ぎ、桜花も過ぎ、新酒が美味しい時期です。今年も酒蔵を4箇所廻ってきました。造り立てを試飲するのは非常に楽しいです。清酒は一般的に14～15度ですが絞り立ては19～20度位でアルコール度数はワインのキャピネット級に相当します。

日本酒は寒造りといって大寒の季節(2月～3月頃)に造る。今年は気候異常で気温が高く酒造所は皆さん苦勞されたとのことを見ました。発酵タンクの中に「氷」を入れたり、冷房装置を設置したり、中には恒温タンク(魔法瓶のような二重槽)で温度管理を自動的にするタンクに切り替えた所もあったそうです。二重化タンクは既にビール製造工場には導入されています。でも新酒は美味しかったです。

廻った酒造所は宗像地区の「伊豆本店(亀の尾)」、博多区の「石倉酒造(如水)」、京都郡の「林酒造(樋の口)」です。また直接絞り立て原酒を取り寄せたのが佐賀の「天山酒造(天山)」、秋田の「児玉酒造(太平山)」です。

絞り立ては度数が高く、香りが良く、のど越しが爽やかで飲めば飲むほどにのめり込むこと請け合いです。日本酒、ビール、ワイン、ウイスキー等の工場見学のツアーが旅行会社で企画されているので利用されると一応の知識を得られ、試飲出来、好きな自分に適したお酒を探せること請け合いです。季節毎の工場周辺探索と併せられればなお楽しいものになります。福岡はその点酒造所が近在に散在しており、花の季節、夏の清涼、秋の紅葉を求め、冬は寒い中での鍋で楽しめます。

今回の新酒の写真を添付します。

写真左より「樋の口」「亀の尾」「天山」

日本酒の基本講座をこれから始めます。

①日本酒には本醸造酒、純米酒、吟醸酒等々あります。

本醸造酒：精米歩合 70%以下の白米、米麴、醸造アルコールにより造る

純米酒：精米歩合 70%以下の白米、米麴のみで造る

吟醸酒：精米歩合 60%以下の白米、米麴を低温発酵で造る

また、生酒、普通酒、生貯蔵酒の表現もあります。発酵後の原酒を絞り処理して瓶詰め・貯蔵する過程の違いで表現される。

生酒：絞りをそのまま瓶詰めするので酵素が生きている。低温保管

普通酒：絞り後濾過、熱処理して瓶詰めするので酵素が生存しない。

生貯蔵酒：絞り後濾過して低温貯蔵しておき、瓶詰め時に熱処理して詰める。酵素生存しない

原酒：一般には加水をしてない貯蔵酒

②お酒の製造

お米(酒米：山田錦・五百万石)を精米し蒸して麴菌付けしてお米の「でんぷん」を「ブドウ糖化」して「蒸し米」と「水」と「酵母菌」をタンクに入れて「アルコール発酵」させる。

こうしてできたものが「醪(もろみ)」でこれを布袋に入れて絞るか濾過器で圧搾して新酒を造る。これをそのまま瓶詰めするか熱処理して瓶詰めする。

以上がお酒の製造と呼び方です。

③「新酒」「古酒」の決め方

新酒とは冬季醸造において造られ春に出来上がった酒をいい、その酒が梅雨及び夏季を越したら古酒になる。酒造年度は7月～6月末で7/1が新酒から古酒に変わる。

大古酒は古酒の前年度に造られたのも。5年以上貯蔵した酒を「秘蔵酒」という。

冬 春 夏 秋
醸造 → 新酒 → 7/1 → 古酒 →

④酒度、酸度

酒度：日本酒の比重のことで酒の甘辛の目安として用いる。

+の度合高くなるほど辛口、-の度合いが高ければ甘口

酸度：酒の中に有機酸が含まれ酒の味覚構成、酸度は酒 10ml を苛性ソーダ (1/10N) で中和したときの量(ml 数)

酸が多いと辛く、少ないと甘い

⑤悪酔いせず美味しく飲む方法

酒を飲むとき水を必ず側に置き、時々利き水として飲むとよい。

九州・福岡は良いとこばい。郷里に早く帰ってきな。待ってるよ〜お。
今回長くなりました。次回からは短く整理して書きます。



フロアプレイ

投稿者:田所 投稿日:2007年4月7日(土)00時16分10秒

福岡サンパレスで行われたフロアプレイのチケットが手に入り夜の興行を見てきました。予告をテレビで見っていたのと想像通り動きが激しく、客席にまで入って行って盛り上げ方は大変上手でした。競技ダンスの世界トップクラスのダンサー、イギリス、イタリア、スウェーデン、ドイツ各国の人々が揃ってハイレベルなダンスを披露しました。最後まで飽きさせない動きには感心させられます。2時間踊り続け、最後まで動きが鈍らないダンスには敬服させられました。よくあのエネルギーがあるものだと・・・またバックの唄も素敵で声量ある唄いっぷりに驚きました。burn the floor の通り舞台が燃えてるようでしたよ。たまにはこんな刺激、いいですね！

娘よ！

投稿者:YJ 投稿日:2007年2月22日(木)00時03分35秒

常々、二世は小生の親父の如く、頑健なプロの柔剣術家、名前のご先祖様に敬意を表して郷土(ごうし)をと願っていた。大事に臨んで、「男、男、男」と勤め励んだが、結果は大事な物を何処かに忘れて来た様だ。健康で良かたいと再考した。

次は、絶対男と、お互いの苦手な食べ物、小生は野菜、嫁さんは肉を中心に試行したが、又してもあるべき物が見当たらなかった。小生が酒断ちを出来なかった事、小生が嫁さんよりも気が強過ぎた事が原因かなと、諦観した。

・・・

あっと言う間も無く、二十年の歳月が流れた。先達、大浦・大取・木村・中村
・・・諸氏が、異口同音に、且つあからさまに娘はいくつになっても可愛いかの
言は、全くその通りだ。

愛情一杯の怖いお父さんに従順である事もさりながら、不肖な小生に代わって
祖父母・岳母に孝順である事は、実に有難い。

今にして思えば、娘が最高だ。

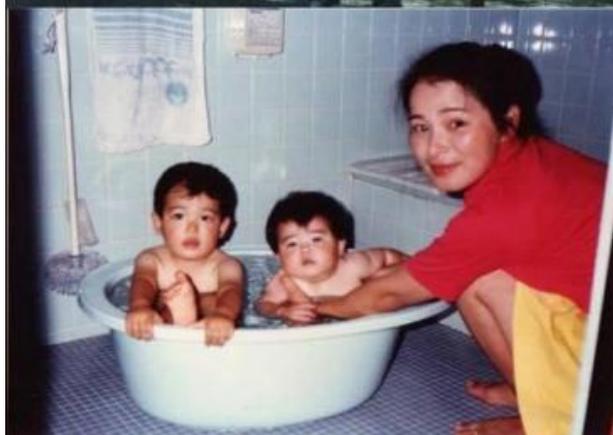
嫁ぐ日は、涙流れて止まずか。

そんな時にゃ、恭順な動物達を、もう厭だって言うまで抱いてやるか。ねえっ、松本君。

《写真》

*㈱匠社寺建築社代表大浦敬規、建築の熊本県玉名市「蓮華院誕生寺奥之院」五重塔にて

*20年の思い出が走馬灯の様に巡る



妻の誕生日

投稿者: 関 投稿日: 2007年 2月 13日(火)10時 13分 31秒

2月8日は妻のウン歳の誕生日だったので、プレゼントに初めて「バラの花束」を送りました。自宅に帰る途中の花屋さんをインターネットで捜しだして、電話をかけて予約しました。初めてのことなのでチョッピリ恥ずかしくもあり、注文の電話の音が上ずっているのが自分でもわかり、思わずぐるりを見渡しました。当日の夕方午後7時過ぎに花屋さんへ受け取りに行くと、真っ赤なバラ、黄色いバラ、ピンクに赤い縁取りがあるバラ、白いバラが約30本の花束。人のいい花屋の奥さんが「今の季節、いいバラがたくさん入っていますので、素晴らしい花束が出来ましたよ。メッセージカードにはなんと書きますか？奥様の名前は？」と聞かれて思わず声が詰まる。「エーとその・・・あの・・・」、すると花屋の奥さんが「誕生日プレゼントでしたね」「ええそうです。」と答えると、いくつかの例文を言われたので、そこで自分に戻り妻にぴったりの文章を書いたメッセージカードを花束に付ける。自宅に着き妻に「おめでとう」と言って大きな花束を渡す。一瞬驚き、そして笑顔になり「ありがとう」と返ってきた。妻の顔には、「私がこんなことをすることが出来るなんて・・・」俺にも出来るぞー！みんな！これからは夫婦で人生を楽しむ時代。感謝と思いやりで・・・。

阿蘇の夕日

投稿者: 高田 投稿日: 2007年 2月 12日(月)01時 19分 54秒

昨夏一眼レフデジカメを買って以来出かけるたびに持ち歩いています。高級機ではないのですが、コンパクトデジカメと比べると存在感があります。一眼レフを使い始めていいものを撮りたいという意識が芽生え始めました。できたら写真を基礎から学んでみたいと思うこの頃です。撮影は風景が多く、出かけるのがいつも昼過ぎですので夕日を撮影する機会も多くなります。今回、初めて掲示板へ作品の発表？をさせていただきます。今日撮影したばかりの阿蘇大観望の夕日です。今日は九重の夢吊大橋へ寄っていく予定でしたが、3頃キロ渋滞の看板がでていましたので、予定を変更して阿蘇方面へ向かいました。連休の中日で出かける人が多かったようで、またもや夢吊大橋はお預けとなりました。1月に行ったら冬季は4時で閉まっていて間に合わず、おまけに道路がアイスバーン状態でえらい目に会いました。ということで、冬にしては絶好の行楽日和の阿蘇大観望に着いたころは夕日が見ごろになっていました。初めてみる大観望の夕日はとても綺麗で日が沈むまで一人で見ていました。連れは寒いからと展望台まではお伴はしませんでした・・・だからというわけではありませんが、何故か若い二人のシルエットの写真が印象を感じます・・・私にもこんな時があったのかどうかは記憶がありません。チョッピリ戻ってみたいような気はします・・・たぶんご覧の皆さんは思い出される方が多いのでは???

他の3枚は外輪山に日が沈むまでの写真です。阿蘇の町や田園がかすかに見れるでしょうか？

夕日は天気がいいと沈む前から沈んだ後まで美しくしさを楽しめます。

夕日が沈んで帰りかけると連れがやってきました。綺麗な夕日が沈んだねと・・・



福岡ナンバーで東北自動車道を走破

投稿者: 中村(純) 投稿日: 2007年1月4日(木) 17時27分24秒

福岡ナンバーの愛車に愛犬を乗っけて、東北自動車道を栃木市まで走ってきました。

家内の父のお墓の掃除(20年ぶり)を兼ねて、栃木市よろず町にある近龍寺に行ってきました。

当山は室町時代の応永28年(1421)に、浄土宗の僧侶である良懐上人によって創建されたそうです。

また、そこと隣接する神明宮にお参りし、「交通安全のお守り」を買いました。

「今年も家族揃って健康でありますように・・・」と少ないお賽銭で、目一杯のお願い事を致しました。

御利益があるかなあ・・・。

福岡から東京まで1200Kmを走破した愛車で、さらに北に100Km距離を伸ばしました。



年始の挨拶

投稿者: 関 投稿日: 2007年 1月 4日(木)15時 30分 1秒

皆さん！明けましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になりました。また今年もよろしくお願ひします。

時にはちょっぴり無理をして、時にはちょっぴりワルになり、時にはちょっぴり夢を追い、時にはちょっぴり恋をする。そんな親父になってやる。そんな少年になってやる。そんな老人になってやる。

「わたし」と言うより「僕」と言うそんな親父になってやる。「わたし」と言うより「俺」と言うそんな親父になってやる。時にはそんな我を見て、日々是れ精進なりと……。

みんな頑張るぞ～、愛する人のため全てに。生きてる限り全てに……。

謹賀新年

投稿者: 稲永です 投稿日: 2007年 1月 3日(水)15時 13分 41秒

21回生の皆様 明けましておめでとうございます。明るく楽しい年であることをお祈り申し上げます。

小生は今年も21回生の宴会参加、旅行、映画鑑賞、酒蔵回り等々に励みたいと考えたます。福岡帰省の折は博多の「櫛田神社」にお参りし、そして博多町屋を見ていただきたい。多いに見識を高められますよ。その際、櫛田神社の楼門の天井に書けてある干支盤を見てください。写真を添付します。



木のぬくもり展

投稿者:高田 投稿日:2006年12月7日(木)23時54分11秒

12月3日(日)阿部さんの「木のぬくもり展」を訪ねました。

創作活動をしている仲間のお家の座敷に作品が展示されていました。

小物からテーブル、椅子など素材にこだわり丁寧に作られた作品です。

木のぬくもりが感じられ、いつまでも長く付き合っていける作品ばかりです。

できるものならこんな家具に囲まれてゆとりある生活をしてみたいと思ってみました。

話を伺いながら美味しいお茶をいただいたのが分割式になっている座卓です。

座卓にもなるし、天板を開けば火鉢にもなります。

お茶の前に珈琲を持ってきていただいたのですが、喫茶店をしていますと言ったら「出せないわ」と直ぐ美味しいお茶と変わりました。たまには良かったんですけど・・・

また、焼酎の樽で作った椅子にも惹かれました。古い素材を活かし、新しい形に蘇らせた作品です。

いいものを入れるにはいい器が必要のようで、我が家には・・・

今回は取材だけの予定でしたが、私の恋人一眼レフデジカメのために写真立てを買いました。大き目が良かったけど財布と相談して手ごろなのにしめました・・・

阿部さんは10年ほど前から古賀の農家を借り、納屋を作業場にして家具造りをされています。是非一度訪ねてみて下さい。

子供さんの切り絵もとても素敵です。



鍋の季節到来！

投稿者: 稲永です 投稿日: 2006年11月23日(木)20時03分30秒

11/22 長浜の小料理屋さんにて今年、最初の河豚料理を食べに集いました。河豚刺し、河豚ちり、ヒレ酒を堪能しました。鍋は良いです。鍋を囲んで和気藹々となり、また身体が暖まり気持ちの良いものです。今回はヒレ酒が特に美味しく深酒になりました。帰宅の時深酒がたたり電車を乗り過ごしてしまい「井尻」が「下大利」になりました。しかし無事、家にはたどり着きました。集まった者は寄、服、関、稲でした。最後に、食べた河豚料理の箸をつける前の写真を貼付します。



フランス夫婦旅行

投稿者: 関 投稿日: 2006年11月22日(水)17時06分13秒

日頃の女房殿の苦勞に報いるため(熟年離婚防止?)11月12日からフランス8日間の旅に出ました。総勢19人と添乗員のツアーでした。メンバーで熟年夫婦は私達だけで、後は新婚旅行組、婚前旅行組、若い女性

たちと昔の若い女性達(海外旅行のプロ?)。年老いた両親子供達を家においての夫婦旅行、新婚旅行以来です。

1 日目名古屋中部空港より J A L 直行便でシャルルドゴール空港へ、専用バスでルーアン近くのホテル泊まり。

2 日目ゴッホの終焉の地「オーベルシュルオワーズ」の観光(教会、下宿先等)、午後ルーアン

ジャンヌダルク火刑の地市内の散策(ノートルダム大聖堂、旧市街地広場)後一路モンサンミッシェルへ。夕日のモンサンミッシェルは素晴らしいの一言。それから夕食は、ホテルでの北フランス料理(ムール貝とポテト、前菜はチーズの盛り合わせ、デザートはアップルタルト)

3 日目午前モンサンミッシェル観光人気の少ない中のんびりと散策をする。昼食は名物のオムレツ独特のものである、午後ルマンを通りロワール地方へ古城ホテル泊まり。ライトアップされた古城の姿は外国に来たことを体感する、

設備もよく夕食もなかなかの料理であった。ワインがつつい進んでしまう。

4 日目早朝の古城を二人で散策すれば、城主の気持ちになった二人・・・???

午前シュノンソー城、シャンポール城他観光、午後シャルトル大聖堂のステンドグラスを

見る。女房殿も感激・・・さあ一路花の都パリへ、パリのホテルの前にはシャネル、横はエルメス本店、100m 先にはグッチなど、大変な場所に3連泊のホテルがある・・・「私は要りません」の一言で一安心胸を撫で下ろす。マドレーヌ寺院の近くに泊まる。

5 日目今日はパリ市内観光、ルーブル美術館、ベルサイユ宮殿、セヌ川下り(バトームーシュ)夜のセヌ両岸は美しい、エッフェル塔を間近くで見るとこれも素晴らしい。夕食は定番のエスカルゴ、女房殿は「パリまで来てカタツムリはイヤ」といていたが、口に入れた瞬間から態度が変わり、「まあ食べられるわ〜」とのこと。ただし、相変わらずのルーブル美術館マラソン鑑賞であるが、今回は人が少なくモナリザ、ミロのビーナス、ナポレオンの戴冠式等ゆっくり鑑賞できたのはよかった。

6 日目今日は自由行動の日で今回の旅でのメイン(オルセー美術館、オランジェリー美術館、そして夜はオペラ座ガルニエのバレエ鑑賞)朝食もそこそこに市内を散策しながら、コンコルド広場を抜け、オルセーへシーズンオフのため午前9時前に切符売場の前1番乗り。9時半開場約3時間を見て、次にオランジェリーへここでは30分ほど待って入場、モネの水連等を見る、楕円形の展示で素晴らしい。昼飯はオペラ座大通りで「ひぐまラーメン」を。

夜は正装してオペラ座へ、非常にいい席とは聞いてたが、案内されたのは前から3列目の中央の席。あまりのいい席に案内嬢にチップを忘れてしまった。天井のシャガールの絵の素晴らしさ、建物の内装の素晴らしさ、幕あいのバーのシャンパン開封の飛び交う音、日本人で和服で来てた人もいたが、大島紬のため地味でもっと派手な柄の着物がよいと思う。

午後11時過ぎに二人でオペラ座大通り歩いていたら、ローラーグレーダーを履いた一団がパトカーに先導され集まっていた。その数約2千人。後で聞いた話だが、毎週金曜の夜午前0時から4時くらいまでパリ市内を走るとのこと。(警察の許可を得て、指定の届け出のコース)ちなみにフランスは未だにナポレオン法典が生きており、3人以上の集会は警察の許可がいる。暖冬のため今回の旅行全般に暖かく、ホッカイロ等持ってきたが不要であった。

7 日目シャンティー城へ、コンデ美術館(ラファエロの三美人など)が有り、フランスでも評価の高い美術館の一つである。シャンティ競馬場が有名である。もともとこの領主がルイ14世が狩りを楽しむための馬のため、大きな馬屋(お城みたいに大きい)を作ったのが始まり。フランスでの最後の食事は3日遅れのボジョレーヌーヴォを1本、前菜のハムの盛り合わせで空にする。つぎは鳩料理を楽しみシャンティーをあとにシャルルドゴール空港へ

アツという間の1週間でした。これで暫くは女房殿ともうまく行くことを願って・・・。

又今日寄川君と河豚を食べながら飲みます・・・かあちゃんよかろー？。

眠れない一夜の一人言

投稿者:半蔵 投稿日:2006年11月22日(水)03時44分58秒

定期総会が終わり、終わりそろそろ筑紫丘創立80周年の特別協賛金の募集にそろそろ腰を据えて取り掛からなくてはと思いますに数ヶ月経つ、しかしどうにも気力が沸いてこない。

男にも更年期障害があるそうだが、まさか、それではないだろうか。

午前3時を過ぎやっと眠たくなってきた。明日、いや今日は、仕事の後に同窓の数人と会うことになっている。

明日から、東北

投稿者:ニシゾノ 投稿日:2006年11月21日(火)17時07分7秒

インド旅行の口直しに明日から、東北のローカル線を回ってきます

札幌夜発 青森翌早朝(5時ごろ)着の急行"はまなす"で東北にたどりつき

その後は、「青い森鉄道」、「IGRいわて銀河鉄道」、「東北新幹線」で仙台まで南下

その後 「仙山線」で山形入り、「奥羽本線」で北上し秋田能代から青森五所川原まで晩秋の「五能線」を楽しみたいと思っています

宿泊予定は2～3日、気ままな一人旅ですから気に入った土地があればそこで宿を求めます、。

インドの旅は楽しいのは楽しいんだけど、なにせ、汽車は遅れるは、飛行機は時間どおりには飛ばないは、でイライラのしっぱなし。一等の客車でもなんだか汚いし、駅に降りると

客引きはしつこくつきまとうし、なぜかホームに牛はいるしで、なんだか疲れる旅でした

でも、インドはもうこりごりかと言うとそうでもなく、来年でも状況が許せばまた訪問したいと思っています。これってやっぱ、"はまった"んでしょうかね？私？

今回のインドの旅では柄にもなく日記を書いてしまっています

28日分ですから結構な分量になっています。

おちついたら、飯田さんの掲示板？「かさぶらんか」に少しずつ投稿させてもらってもいいですか？ その節は宜しくお願いします。